

## 式辞

本日ここに、令和2年度 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校 卒業式および修了式を挙げるにあたり、水産大学校校長として式辞を申し上げます。本科 192 名、専攻科 49 名、水産学研究科 11 名の皆さん、卒業・修了、おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

本来であれば、これまで皆さんを支えてこられた保護者の皆様、そして、本校学生および本校に対して並々ならぬご支援とご理解を賜ってきた水産庁、下関市、水産大学校同窓会滄溟会および後援会からのご来賓ともども、盛大に皆さんをお送りしたいところですが、新型コロナウイルス感染予防の観点から、縮小して実施せざるを得なくなったことを、たいへん残念に思います。

さて、皆さんの在学最後の年は、新型コロナウイルス感染のパンデミックという、未だかつて経験したことがない事態で終始しました。私たち教職員も、当初、何から手をつけていけば良いのか見当もつかず、学内で感染拡大を起こさせないことと、最低限必要な教育は維持することを最大の目標として、試行錯誤を繰り返し何とかここまで持ってくることができました。しかし、最も苦勞したのが、学生の皆さんであることは疑いもないことです。卒論生、研究科生は本来計画していた実験や調査などが十分にできず、研究の完成を不安に思ったことでしょう。海外への渡航が制限されたため、遠洋航海でも外国に寄港することができず、国際的な見聞を拓ける大きな機会が失われてしまいました。また、専攻科生の皆さんは、そもそも実習航海が行えるかと大きな不安にかられたはずです。このように、学生時代最後の総仕上げに満足感を与えることができなかつたことは、教育機関を預かる身として、心苦しい限りです。しかし、皆さん一人一人が感染防止に最善を尽くしてくれたお陰で、大学が実施した感染防止策も効果を発揮し、大事に至ることなく本日の卒業・修了の日を迎えることができたことは、誠に喜ばしいことです。

感染の第 3 波を越え、首都圏に出されていた緊急事態宣言も明日で解除されることになりましたが、感染が終息したわけではまったくありません。それどころか、気を緩めれば、たちまち第 4 波、第 5 波と続くことでしょう。今後は、

新型コロナウイルスと共存する社会を前提としていくことが不可欠になります。皆さんの4月からの新しい生活もまさに **New Normal** 仕様になるはずです。

皆さんのこれからの長い人生の中では、新型コロナウイルス以外にもさまざまな困難に遭遇するかもしれませんが、荒波にもまれながらも、巧みな舵さばきで海路を拓くのは、われわれ水産人がむしろ得意とするところではないでしょうか。この事態をネガティブに捉えるのではなく、新たなチャンス、社会全体のレジーム・シフトの到来と捉え、今までとは異なる、新たな水産の世界を築いてもらいたいと思います。大いに期待しています。

最後に、皆さんのご多幸を祈念し、校長の式辞といたします。

令和3年3月20日

水産大学校校長 須田有輔